

■ 平成 25 年度総会を開催しました

6月8日(土)に今年度の総会を開催しました。参加者は22人でしたが、新入会員が3人、また、横浜から庄子忠宏さんも参加して下さいました。

来賓の岡田教育長からごあいさつをいただき、協議に入りましたが、予定した平成24年度事業報告、決算及び平成25年度事業計画、予算について御賛同をいただき決定しました。



総会終了後に研修会を行いました。話題提供者は丸川二男会長で、「蚕桑上の台招魂碑について・その他」ということで、上の台公園にある招魂碑から話を起こし、ムクロジの実から数珠を作る話でまとめて下さいました。

お話を聞いて、上の台公園が日露戦争の戦勝記念で作られたこと、「深山観音堂」の絵を描いた船橋惣三郎氏がブルドックソースのトレードマークになっているブルドックのデザインをしたことなど、今までに知らなかったことの数々がとても新鮮に感じました。

また、いつもより、女性の姿が多かったことも、いっそう会を華やいだものにしたようです。

追記 会合の中で話題になった「尪」という文字ですが、「仙」の異体字として、康熙字典などに載っているようです。読みも意味も「仙」と同じでした。「ヒド」と読ませるのは白鷹町独自かもしれません。

■ 「大政」・栗田家の結婚式と山口蓬春 丸川二男

この写真は今回の調査の途中で、白鷹町高玉の高橋誠三氏宅から見つかったものである。撮影された時期は「昭和二十一年四月十八日」、場所は亀岡の栗田政之助の自宅玄関前である。新郎・新婦をはさんで両側に政之助夫婦が座り、それぞれの隣りにいるのが日本画家の山口蓬春夫婦である。



蓬春は戦争末期の二十年の四月から二十二年の一月にかけて、当時の赤湯温泉「桜湯」の一部を買い取り、疎開生活をしていましたが、その間、亀岡の酒造会社「大政」の主人・政之助は親戚同様に蓬春を迎え、援助を惜しなかつたというのである。この写真はその話を裏付けるものである、ちなみに新婦は誠三氏の姉である。なお、くわしくは「赤湯疎開時代の画家・山口蓬春」として、後日、発表の予定である。

■ 布に関わる様々な植物のこと

守谷英一

白鷹町の織物について勉強をはじめた。今、特に気になっているのは白鷹町独特の手織機である。白鷹町の高機は地糸の経糸を巻いた千巻き（緒巻き）の他に、緋染めされた経糸を巻いた緋巻器を別に取り付けるようになっている。

本体そのものは、米沢や長井のものによく似ているので、白鷹町の織物を織りやすくするため、改良されてのではないかと考えているのだが、まだ検証できていない。大江町、南陽市、米沢市、福島県川俣町、福島市と暇を見つけて出かけては、資料館や博物館を訪ね歩き、織機を見て回っている。

さて、そのようなことで十王の小松織物工房さんや、白鷹町出身の織物作家で南陽市在住の川合ひさ子さんを訪問して、教えてもらっている。その中で、「アオソ」「アカネ」などの植物を教えていただいた。また、長井市の木島由美子さんには、「クズ」を織った葛布のことや、和紙を糸にして織る「紙衣」のことも教わった。紙の原料である「コウゾ」も布になるのだ。私たちの祖先たちは、様々な植物を布にしていたのだと驚く次第である。木島さんは、様々なものを糸にして布を織っている。北海道の熊の木彫りに使う「イチイ」の樹皮や「シナ」という

樹皮の繊維も布にしている。また、私たちには山菜の「アイコ」としてなじみの「アカソ」も木島さんにとっては糸の原料である。

今あげた植物のいくつかは私たちの身近にあるものだ。「アオソ」「クズ」や「アカネ」はあちこちに生えていて、手の掛かる雑草になっている。そういうことがわかってきたのも、織物のことについて、話を聞くようになってからだ。

我が家には、道路を挟んだ向かい側の小杉さんからもらってきたアオソが数本育っている。小松さんにアカネのことを聞いて庭を歩き回ったら2箇所アカネが生えていた。アカネは日本でも栽培していたが、今は栽培農家もなくなり、染料として使うものは輸入品だと小松さんが教えてくださった。



庭のアカネ

布に関わる植物は、その気になって見だすとあちらこちらに見つかる。それも、アオソなどはかつての栽培地と思われる地域によく見つけることができる。白鷹町、大江町の西部、山形市の白鷹山の麓や竜山の麓など。そのうちにきちんと分布を調べてみたいと思っている。

さて、これらの植物の活用だが、大江町では「青苧復活夢見隊（あおそふっかつゆめみたい）」を立ち上げ、青苧の特産品作りを行っている。アオソを栽培して、うどんに混ぜたり、茎を塩漬けにして食べたり、繊維をとって布を

織ったりする活動を行っている。その活動の中心になっているのは老人たちだ。

白鷹町十王は、かつて直江兼続が青苧栽培に適した土地であるからといい、米沢藩領で栽培を奨励した最初の土地であった。そして、米沢藩の青苧は小千谷縮の原料として、越後に運ばれ、藩の財政を支えた。

十王地区を歩いてみると、立派な青苧があちこちに育っている。地域の活動として、これらを利用するのはどうだろうか。

邪魔なものであっても、見方によっては資源になる。休眠している技術・技能と知恵を寄せ合えば、おもしろいものが生まれるような気がして、雑草を眺めては夢見ている。

■ 母の名前から

丸川二男

私の母の名前は「つね」といったが、子どものころはやはり変な名前だと思ったことがある。祖母の名前は「ゑつ」であり、親戚には「あき」や「なか」という名前の叔母もいた。

そういう目で見ると近所にはあらかた亡くなってしまったが、さん、ひろ、たけ、ちう、きみ、みん、かね、きち、きく、とめ、さだ、かん、しげ、つる、やえ、しん、しか、とら、いし、うん、まさ、いと、くん、はな、かめ、せい、いせ、もん、さよ、ふじ、よつ、みつ、てい、しう、しず、こう、すえ、などという名前の老女たちが、この間までそばにいたことを思い出した。

だが、たとえば「まつ」「たけ」「うめ」は松竹梅、「つる」「かめ」は鶴亀、さらに花、菊などすぐ漢字を連想しがちだが、それはあくまでも後で漢字を知っている人の話であって、ひらがなも書けなかった人たちの間では耳から聞く音だけがそれぞれの人を識別するもので、

はじめから意味などなかったのだろう。

近年は事情が異なるが、人の名前、それも女性の名前になせ「ひらがなの二文字」が多いのかは、はっきりしたことがわからない。紫式部や清少納言、小野小町が本当の名前ではなかったろうし、当時はあっても文字に残っているのは「何々家の娘」や「何某のお方」である。だからといって他の人と区別するための名前や、それに代わるものがなかったわけでもないだろう。一説には元々名前が必要でなかった時代が長く続き、突然に付けられたものが「ひらがなの二文字」ということなのではないかともいう。確かに一音ではただの音で、人を識別するには役立たまい。このように私たちの身のまわりには、まだいくつもわからないことがあるのである。

名前といえば、男の場合は少し事情がちがっていたようで、戦争中は勇ましい漢字の名前が多かった。偉い軍人の名前の一字を付けるのも多かったというが、特に「征」や「勝」「忠」という文字はみごとに戦時中のものである。戦後は健康など、親の願望が子どもの名前にあらわれたりしているが、たいていは希望に過ぎず、自分にないものを子どもに望んだりするが遺伝の方が強く、結果は無いものねだりになることがよくある。つまり、人の名前の付け方も時代の影響を受けて変化してきたのである。

ところで私の祖父は留七という名前だったが、そこには実に沢山の子ができたようだった。下の方には一字もらった「留次」というのがおり、その下にできた子にはもうたくさんだというので「留太」とつけたが、その子どもは弱くて早くに亡くなってしまい「命までとめた」といつて、次にできた子どもには「留蔵（とめんぞう）」と名づけたのが今の叔父だという。笑い話のように聞こえるが本当である。

また俗に「名は体を表わす」ともいうのが、これも当たっているものやら……。漢字の画数での運勢判断などというものもあやしいものだろ

う。一方では親が子どもの名前にささやかな希望を託しても「親の心子知らず」で、いくつになっても親子は親子である。こうなると案外、昔のような無意味な名前の方がいいのかも知れない。

■ おしらせとおねがい

○いつものことではあるが、「会報 史談」への投稿をお願いします。どんなものでもかまいません。日常で思ったことや、考えたこと、あるいは疑問に思ったことを会員の皆さんに尋ねてみるのもよいかと思います。守谷へお届けください。

○本文にも書いたことだが、守谷はこの頃手織機を訪ね歩いている。織機を調べさせてくださる方、あるいは織っていたことを話してくださる方を探している。特に機を購入した日付とか、製造所の名前とかが入っているものがあれば、特にありがたい。また、そのほか機に関する何を何でもかまいませんので教えてくださる方を探しています。

○7月7日(日)午後1時30分から十二の桜公園で「十二の桜フォーラム」が開かれます。内容は ・十二の名前の由来とは など 本会の江口儀雄さんが講師の一人としてお話をします。

十二の桜 フォーラム

日時 平成 25 年 7 月 7 日 (日)
午後 1 時 30 分より

場所 十二の桜公園 (SHIRATAKI PARK)

内容
・十二の名前の由来とは
・現在の樹は 2 代目と書つけれど本当?
・2 代目の株元の實には何が配られていたのか?
・福徳山参りの古道が樹下を通っている

講師 歴史研究室 江口儀雄 氏
長福寺住職 佐藤真隆 氏
安楽院住職 高橋克範 氏

主催 山日の歴史史にふれる総論会
協力 山日の歴史めぐり

お問い合わせ
電話 0238-85-0889 本木勝利

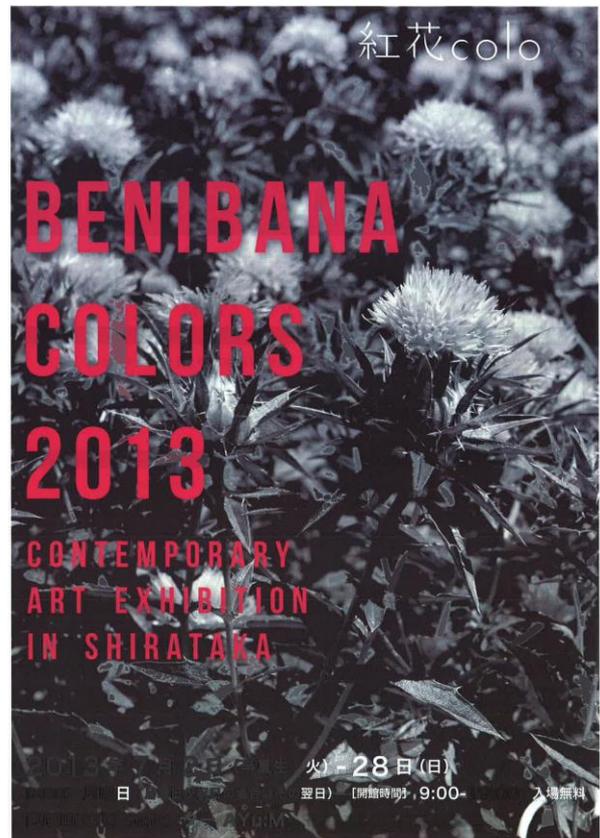


○第19回白鷹紅花まつりが7月13日(土)

14日(日)に開催されます。メイン会場は滝野交流館(旧滝野小学校)です。また、「紅花 colors 紅花アート展」も併せて開催されます。日本一の紅花生産量を誇る白鷹町と、東北芸術工科大学のテキスタイルコースとの出会いから生まれた展覧会です。

開催期間:7月2日(火)~28日(日)

会場:白鷹町文化交流センター あゆむ



○お願いが2つです。

最初は、本年度の会費の納入をよろしくお願ひします。まだお済みでない方は御連絡いただければに参上します。

2つめは会報の記事のためにかご編みなどの手でする仕事の取材をしたいと思っています。一緒に行きませんか。よろしければ守谷御連絡ください。携帯電話は下記のとおりです。

090-8255-7763

また、そういうことをなさっている人をご存じでしたら教えてください。

そのほか、本会の活動や会報についての希望がございましたら御遠慮なくお知らせください。